

# 日本地球物理磁気学会会報(第80号)

1978年12月12日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2-11-16(〒113)

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111(内線6476)

## I 学会役員選挙について

次期(昭和54~55年度)学会役員選挙を下記の通り行ないます。同封の投票用紙(2枚)、封筒を用いてご投票下さい。

送り先 上記学会事務局(同封の封筒をご使用下さい)

投票締切日 昭和54年1月25日

これまで通り委員長、評議員、運営委員の投票を同時に行ないますので、投票用紙を間違えないようご注意ください。投票にあたっては同封の会員名簿を参考にして下さい。なお、次の方々は内規第4条の規定により運営委員を辞退する意志のあることを表明しておられます。

近藤一郎(運営委員通算6期) 西田篤弘(運営委員通算5期)

小林和男( " 連続3期)

運営委員のうち8名はその在住する地区から選出されますが、この地区の分け方は日本学術会議の地方区に準じて次のようにきめられています。

東北・北海道地区 北海道、青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島

関東地区 栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、新潟

中部地区 富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知

関西以西地区 滋賀、京都、奈良、和歌山、三重、大阪、兵庫、鳥取、広島、島根、岡山、山口、愛媛、香川、高知、徳島、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

## II 第64回総会ならびに講演会

秋の総会ならびに講演会は10月17日(火)~20日(金)の4日間、仙台市街を見下す青葉山々麓の東北大学川内記念講堂松下会館で開かれました。19日午後には特別講演「International Magnetospheric Study」(J.G. Roederer 氏: アラスカ大), 「地震学の最近の発達と地震予

知」(高木章雄氏：東北大理)が大家 寛氏の司会で行われ、会場前広場での記念撮影の後、下記の次第で総会が開かれました。

- (1) 開会の辞(齊藤尚生会員)
- (2) 議長選出(西田篤弘会員)
- (3) 大会委員長挨拶(上山 弘大会委員長)
- (4) 運営委員会報告(小川利紘, 大家 寛運営委員)
- (5) 田中館賞授与

第77号 上 出 洋 介 会 員 「地磁気変動と三次元電流系の研究」

- (6) 田中館賞審査報告

前田委員長から評議員会での審査の結果が下記のように報告されました。

「上出洋介会員の論文は、地上観測データを十分活用して地球磁場変動を詳しく解析し、更に電離層レーダや人工衛星による磁場・粒子・極光等の観測結果を総合して、電離圏・磁気圏にわたる三次元電流系の諸特性を詳しく研究した。即ち①地上観測データの解析によって汎世界的磁場変動を説明する三次元電流系を求め、partial ring current の意義と役割を明らかにした。②チャタニカ電離層レーダの観測結果と、アラスカにおける磁場観測網の結果を比較して、auroral electrojet の解明に新しい知見を加えた。③通常、日変化磁場の表現に使われている等価電流系の手法を擾乱磁場に適用する方法を考案し、磁気嵐時のはげしい磁場変化の様子を電流系の変動として映画で表現することに成功した。④人工衛星による観測データを用いて、auroral electrojet, visible aurora, field aligned current の相互関係を明らかにし、更に電算機実験によって三次元電流系の新しいモデルを提案した。このように多くのデータを精力的に解析し、総合的に活用して三次元電流系の構造を解明した業績が田中館賞に値すると判断された。」

- (7) 委員長挨拶

前田委員長から要旨下記のような挨拶がありました。

「私が委員長に就任した時は丁度本学会設立30周年に当たったので、いろんな面で反省してみる点があることを申しあげました。特に次のような点について、会員各位のご検討をお願いしたいと思います。①本学会は経済的に極めて不安定であり、なるべく早く法人化して収入の途を開き、安定化したいものです。②今まで春秋2回総会と講演会を行ってきましたが、学会時に相談したい事柄も多いようですので、総会は原則として年1回にしては如何でしょう。③今回試みに始められたポスターセッションは、講演会場に関係なくゆっくり見られ、個別に話し合えるので大へん有意義と思います。今後もできるだけ継続してほしいものです。」

④学会誌は本学会の全分野をカバーできることが望ましいので、将来のためによりよい誌名をお考え頂きたいと思います。最後に、会員各位のご協力によって、2年間委員長の大役がとめられた事を感謝しております。」

(8) 議 事

(イ) 学会会費値上げ

原案(下記Ⅲ参照)につき種々活発な意見が出されたが、結局原案通り可決されました。

(ロ) 学会名、学会誌名の変更

学会名と学会誌名の変更を別けて審議することにし、まず後者についてたたき台として示された次の三つの案を中心に討論しました。

① Journal of Earth and Planetary Sciences (編集委員会案)

② Journal of Geomagnetism and Space Physics (評議員案)

③ Earth, Planet and Space (運営委員会案)

いろいろと活発な意見が出されましたが、時間切れのため継続審議になりました。どちらかと言えば変更すべきだとの意見が多く、上記三案の中では②を支持する人が多かったようです。

(ハ) 次期開催地確認

来年春の学会が宇宙研のお世話で開かれることが確認されました。

(ニ) 次々期開催地決定

行武 毅会員から来秋の学会の開催地として松江が提案され伊藤晴明会員(島根大)、宮腰潤一郎会員(鳥取大)から担当機関として引受けるとの答えがありました。

(ホ) その他

(9) 謝 辞

参加者を代表して大林辰蔵会員から今回の総会と講演会をお世話下さった東北大学理学部の方々に謝辞が述べられました。

(10) 閉会の辞

今講演会では、①ポスターセッションの新設、②登壇回数1人1回の呼びかけ、③座長氏名のプログラム記載等の新しい試みが実行されました。①、②は講演会の4日間2会場制を維持するための策としてまず成功であったと評価していますが、さらに改良を要する点もあるかと思っています。ご感想、ご意見を運営委員会宛お寄せ下さい。

### Ⅲ 学会々費値上げについて

仙台の総会で可決された来年度からの改訂会費額は下記の通りです。会費納入についてこれまで以上のご協力をお願い致します。

正会員	年額	6,000円
学生会員	//	4,000円

### Ⅳ 春の総会・講演会について

春の学会の日程は次回運営委員会で決定されますが、今のところ下記のような予定です。

総会・講演会	昭和54年5月15日(火)－18日(金)
講演申込み締切り(予稿とも)	3月31日(出)

### Ⅴ 会員名簿の配布について

会員名簿が完成したので配布します。誤りや変更がありましたらお知らせ下さい。

### Ⅵ 昭和54年度文部省科学研究費補助金審査員候補者の推薦について

学会内規により運営委員の投票の結果次の会員を推薦しました。

超高層物理学分野：西田篤弘，大家 寛，加藤 進  
第2段 審査員：福島 直

なお、団体地球物理学分野には行武 毅会員が前年からの継続審査員として残っておられるので今回は推薦しませんでした。

### Ⅶ 特定研究新分野の設立申請に関して

大 家 寛(東北大学理学部)

昭和55年度を目途として、特定研究領域を新たに申請することが、最近、地球電気磁気学会、太陽地球環境研究会(Solar Terrestrial Environmental Research)および天文学会等に呼びかけられ、計画されるようになりました。さらに、宇宙航空研究所、月惑星研究班を中心とする惑星科学の領域の参加を得て、昭和53年8月11日、特定研究設立に関する世話人会をもつことになり、現在、以下のように相談を進めています。

#### 1. 特定研究の題名

「太陽系における地球・惑星の基礎的環境の研究」

注 「環境」という語句に関してその適否を現在討論中です。題名について良い案があったら、

世話人にご連絡下さい。

## 2. 領域設定の趣旨

太陽系の起源の問題への取り組みは、古くラプラスやカント時代にさかのぼる。これは、宇宙の遠い過去の時代や天体の生成の謎にかかわる天文学の根本の問題の一つでもある。一方、人類の地球上に築いた文明活動は、いくつかの紆余曲折を経つつも、着実に進歩を続け、今や21世紀を目前にした。現在の科学技術は、地球規模でその環境を変え、科学技術がもたらした人類の行動範囲の拡大は、地球を離れ月に至るまでになった。さらに、無人探査体は惑星空間を飛翔し、遠く木星にまでも至り、現在土星に近づきつつあるが、この時期にあたって、天文学の研究はもとより宇宙の始源物質を探り、惑星の生成過程を求める惑星科学の研究は、地球大気、超高層、さらに電磁圏の現象を究明してゆく地球物理学や宇宙空間物理学の諸領域の研究ともども相近づき、その問題の提起においてまた、問題解決の材料を得るにあっても、太陽系の存在とは不可分となった。一方、一つの惑星としての地球環境は、単に現状の解明にとどまらず、太陽系全体の中で現状にたどりついた過去の過程についてその謎を究明するため、研究活動を拡大してゆく時代がきたのである。

太陽系の起源とそこにある地球の誕生と進化の問題は、したがって広く専門分野が結合した息の長い人類的テーマであるが、本研究は、こうした今後、より深く追求されてゆく一連の研究の第一歩として最も基礎的な領域から着手し、既存の分野勢力にとらわれず、密接に関連する分野が相携えて新領域を設立し、研究活動を行うものである。

## 3. 研究の組織（研究班）

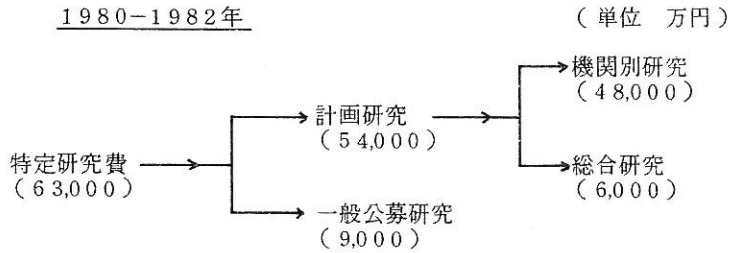
1. 太陽系構成元素の起源と宇宙年代
2. 太陽の形成と原始太陽系星雲の進化
3. 始源物質の起源と分化
4. 惑星の起源と進化
5. 太陽系内小天体の起源と惑星の天体力学的変動
6. 惑星の大気圏と電離圏の物理及び化学
7. 惑星のプラズマ圏及び磁気圏の物理
8. 惑星間空間とそのプラズマ状態
9. 太陽の変遷とその現状

- ☐ 1.には特異星の研究を含む。
- 4.には惑星の表層部を含む。
- 6.には大気圏を制御する要素の一つとしての水圏を含む。

#### 4. 研究経費の規模

具体的に計画を詰めた段階で、計画規模が定まるが、現在の目途は以下の通りとなっている。

研究経費（3年間）



#### 5. 今後の進め方

##### 5・1 世話人

世話人として各領域から以下のような方々に依頼することになった。

天文関係	惑星科学	電磁気学会	STEC関係
古 在 由 秀	林 忠四郎	小 嶋 稔	西 田 篤 弘
平 山 淳	増 田 彰 正	大 家 寛	柿 沼 隆 清
川 口 市 郎	長谷川 博 一	北 村 泰 一	甲 斐 敬 造
奥 田 治 之	水 谷 仁	河 島 信 樹	田 中 靖 郎
上 野 季 夫	清 水 水 幹 夫	佐 藤 哲 也	
田 鍋 浩 義	本 田 雅 健	近 藤 一 郎	
小 平 桂 一	中 沢 清		
田 中 春 夫	杉 本 大 一 郎		
	武 田 弘		

順不同

##### 5・2 準備計画

12月14日 シンポジウム

計画を中心として各班の研究内容をつめるためのシンポジウムを開催する。

12月14日(夕) 第2回世話人会

12月20日 申請書原稿の仕上

1月20日 印刷終了\*

\*その後各研連（以下が考えられている）の承認を得る。

- 1) 物理学研究連絡委員会
- 2) 天文学研究連絡委員会
- 3) 宇宙空間研究連絡委員会
- 4) 地球物理学研究連絡委員会
- 5) 地球化学研究連絡委員会
- 6) 電波科学研究連絡委員会

## 6. 具体的作業

### 6・1 作業内容

- ・ 具体的な研究計画
- ・ 当該研究に対する内外の情況
- ・ 当研究の必要性
- ・ 研究経費配分計画

の項については、今後世話会会のサブグループで12月までに詰めていく予定で、特に具体的研究内容や当該研究に対する内外の情況は、12月14日のシンポジウム等で検討する。

### 6・2 研究経費配分の概要

現在、特定研究予算配分についての素案として以下のように考えている。

機関別研究は

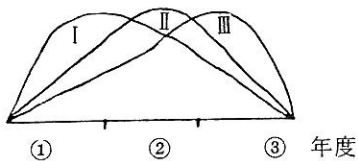
- a. 観測を行う機関
- b. Laboratory 実験を行う機関
- c. 理論研究(データ解析及び数値計算)を行う機関

の三種類に分類する。

- a.b 最大 1000万円(年間)
- c 最大 200万円(年間)

を考える。

I, II, IIIの三つのタイプにおいて全体での配分を三年度にわたり平均化する。



6・3 班の分担世話人及び連絡者(○印)において、具体的作業を進めることになった。

班

- 1 本 田 雅 健<sup>○</sup>、 杉 本 大 一 郎
- 2 増 田 彰 正、 長 谷 川 博 一<sup>○</sup>、 田 鍋 浩 義
- 3 林 忠 四 郎、 中 沢 清<sup>○</sup>、 奥 田 治 之
- 4 小 嶋 稔<sup>○</sup>、 水 谷 仁、 武 田 弘
- 5 古 在 由 秀<sup>○</sup>
- 6 清 水 幹 夫<sup>○</sup>、 上 野 季 夫
- 7 大 家 寛、 佐 藤 哲 也<sup>○</sup>、 河 島 信 樹、 北 村 泰 一
- 8 西 田 篤 弘<sup>○</sup>、 柿 沼 隆 清、 近 藤 一 郎
- 9 川 口 市 郎、 甲 斐 敬 造<sup>○</sup>、 平 山 淳、 小 平 桂 一

注) 以上、本特定研究分野設定にご参加希望の方々は、該当する班の分担世話人にお申し出下さい。12月のシンポジウム頃までに各世話人が作業を行い、具体的な班編成案等が出されてゆくこととなります。

## VIII 第16回宇宙線国際会議について

1979年8月京都において標記の会議が開催されることとなりました。この国際会議はIUPAPのCommission Cosmic Raysが隔年に開催しているもので、日本でも1961年に第7回の会議が「地球嵐シンポジウム」と共催で開かれた事はご存じの方も多しと存じます。

今回の国際会議では宇宙物理から素粒子物理までを含む幅広い研究分野をカバーし、国外から約400名、国内から約250名の参加者が予定されています。会議の開催要綱は下記の通りでありますので出席ご希望の方並びにご関心をお持ちの方は国際会議事務局までご連絡頂ければ幸いです。

### 会議開催要綱

主 催	日本学術会議 日本物理学会
ホスト機関	東京大学宇宙線研究所
日 時	1979年8月6日(月)～8月18日(土)
場 所	京都市
形 式	招待講演, 分科会, 総括講演
分科会題目	OG: 宇宙線の起源並びに高エネルギー天文学 SP: 太陽及び太陽圏内で発生する放射線



MG : 宇宙線強度の時間的空間的变化

MN : ミュー中間子及びニュートリノ物理

HE : 10 TeV 以上の超高エネルギー現象

EA : 空気シャワー現象

T : 測定技術

参加者 参加は原則として Commission Chairman の招待によりますが国内の参加者については日本の Commission Member の推薦によって招待状が送られます。

登録料 登録料は1人20,000円で会場受付で納入して頂き論文前刷(Conference Paper)9巻が手渡されます。(会期後更に3巻が刊行され送付致します)

その他 1st Circular は1978年11月中に2nd Circular は1979年2月始に発送されます。一般講演申込締切りは3月15日で国際プログラム委員会及び国内組織委員会がプログラムを決定します。

事務局 〒188 田無市緑町3-2-1

東京大学宇宙線研究所 鎌田 甲一 電話0424-61-4131

## K 新入会員

前号(第79号)会報記載後の新入会員は次の通りです(\*印は学生会員)

長 沢 親 生\*(九大理) 大志万 直 人(東工大理工)

越 後 宏(東北大工) K.S.Zalpuri (東大理)

V.A.Schmidt (Univ.of Pittsburgh)

## Ⅺ 日本学術会議第76回総会報告(日本学術会議広報委員会)

第76回総会は10月25日(水)～27日(金)までの3日間、日本学術会議講堂で開かれた。

第1日目にはまず、沖縄からオブザーバーとして参加された沖縄大学学長安良城盛昭、琉球大学理工学部教授山里清の両氏が紹介された。次いで8月12日逝去された第2部所長の野間繁会員の御冥福を祈つて黙とうをさされた後、その補充として新たに会員になられた東京大学法学部教授滋賀秀三氏が紹介された。

続いて会長報告が行われ承認された。さらに科学技術会議に対して学術会議は積極的に働きかけることが必要である旨言及された。

引き続き運営審議会付置の日本学術振興会、広報、財務、勧告等、日本学術会議改革検討、国際会議主催等検討、第11期活動計画調整、選挙の各委員会報告並びに質疑応答が行われた。この中で財務委員会からは1979年度の概算要求として審議経費を重点的に18.8%増の要求を行つたことが報告された。また広報委員会がまとめた「本会議と国会との連絡に関する方針」が報告された承認された。

午後は各部会報告がなされた。期の始めのこともあつて、部会の活動状況に加えて今期における各部固有の基本的問題の審議計画が述べられた。

続いて国際学術交流、学術体制、研究費、科学研究計画、科学者の地位、学問・思想の自由の各常置委員会報告が行われた。国際学術交流IOSU分科会ではIOSUへの中国加盟をめぐる情勢について、同総会に出席された伏見会長から補足説明があり、研究費及び科学研究計画委員会の報告に関連して巨大科学のあり方等について発言があつた。

第2日目は午前中科学振興基本問題、発展途上国学術協力問題、国公立研究機関問題、学術情報生産・流通問題の各特別委員会の報告、午後には災害問題、環境・健康問題、食糧需給問題、エネルギー・資源開発問題、原子力平和問題、国際協力事業の各特別委員会の報告が行われ、それぞれについて活発な質疑・応答があつた。

続いて行われた中央選挙管理会報告の後、特に原子力研究連絡委員会から「医療法に規定する以外の加速器・原子炉等による医療照射についての暫定的ガイドライン」についての説明がなされ、その趣旨が了承された。

続いて提案審議に入り、先ず「中層大気国際協同観測計画(MAP)の実施について」(勧告)が提案され、宮原第4

部長からその必要性等、鈴木第4部会員から学術会議内部特に第4部会での検討内容、国際協力事業特別委員会STEP分科会の永田武委員長から国際的背景及び計画内容についてそれぞれ説明があり、審議の結果満場一致で原案を採択した。次に「第11期における研究連絡委員会の組織・運営等の整備について(申合せ)の一部改正について」が提案された。これは研究連絡委員会の一部の名称変更と定数変更に関するもので、第11期活動計画調整委員会の今道委員長から理由説明の後審議を行い満場一致で原案を採択した。続いて「委員会調整のための運営審議会付置小委員会の設置に関する運営審議会への授權について」が提案され、渡辺同委員会幹事から提案理由が説明された。これは次回総会までの間に委員会の任務・定数等について調整する必要が生じた際の小委員会設置に関する授權であつて、審議の結果満場一致で採択された。次に「総会の議案についての一部改正について」が提案され、日本学術会議改革検討委員会法規分科会の三宅委員長から理由説明があつた後、満場一致で採択された。

続いて学問・思想の自由委員会からの要望により自由討議が行われた。高柳委員長から元号問題にからむ歴史学研究会大会における暴力行為等、元号法制化問題、有事立法問題についての説明があり、同委員会ではこれらの問題を政治的ではなく学問・思想及び表現の自由という立場で取り上げている旨述べられた。これを受けて多くの会員から活発な意見が述べられた。

第3日目は午前中「第11期における課題及び各種委員会(研究連絡委員会を除く。)の整備について」が提案され、第11期活動計画調整委員会の今道委員長、渡辺幹事から提案理由の詳細な説明があつた。これは1)前総会で審議し各種委員会の任務についてその後修正要求があつたものを含め一括して決定すること、2)国際協力事業特別委員会の設置、及び3)運営審議会付置沖縄学術連絡委員会の設置の3点に関するものである。各点について活発な意見の開陳があり、特に3)については臼田第1部会員及び安良城オブザーバーから沖縄の特殊事情についての発言があつた。審議の結果原案を一部修正し満場一致で採択して本総会を終了した。

3日目午後は部会・委員会が開かれ、また会員による学術講演会が開催された。

なお、本総会の出席率は1日目90%、2日目85%、3日目80%であつた。

日本地球電気磁気学会役員選挙投票用紙(i)

委員長

--

評議員（9名連記）


## 日本地球電気磁気学会役員選挙投票用紙(Ⅱ)

運営委員(14名連記)

主として地球外部物理学を研究するもの(3名)

--	--	--

主として地球内部物理学を研究するもの(3名)

--	--	--

東北・北海道地区に在住するもの(1名)

--

関東地区に在住するもの(4名)


中部地区に在住するもの(1名)

--

関西以西地区に在住するもの(2名)

--	--

㊥ 14名中少なくとも1名は貴方が委員長に投票された方の所属機関から選んで下さい。